

知的障害者が継続して就業するために必要な 資質・能力の検討

～特別支援学校高等部における新しいキャリア教育指導・支援プログラム開発の前段階として～

Keyword：知的障害、就労支援、キャリア教育、基礎的・汎用的能力

背景と目的

知的障害者の就労を取り巻く環境は年々改善が進められているものの、諸般の情勢を受け、企業からは確実に戦力となり、長期的に働ける人材が求められている。

知的障害者が継続して働けるためにはどのような資質・能力が必要かについて、知的障害者を採用する企業の視点から調査・検討を行った。

また、調査で明らかになった資質・能力と、現在のキャリア教育の中心となっている「基礎的・汎用的能力」がどのように関連するかを考察した。

知的障害者の就業をとりまく環境の変遷

positive

法定雇用率の上昇
(2.0%→2.2%
→**2.3%**【令和3年3月】)

改正障害者雇用促進法の施行

・障害者差別の禁止
・合理的配慮の推進

negative

精神障害者の
求職数増加

高い早期離職率・
短い勤続年数

新型コロナウイルス
感染拡大による雇用
環境の悪化

企業は確実に戦力となる人材を求めている

①「企業が求職者に求める資質・能力」を明らかにする

No	資質・能力	No	資質・能力
①	TPDに応じた身だしなみを選択し、維持することができる。	①	与えられた作業を安定した速度・精度で行うことができる。
②	職場のルールを理解し、遵守することができる。	②	「働きたい」という意思を明確に持っている。
③	与えられた作業を指示通りに正確に行うことができる。	③	作業中、自分の確かな判断を行うことができる。
④	作業の途中で予備等の変更を指示された際に、対応することができる。	④	作業を積み重ねることによって習熟することができる。
⑤	与えられた作業に責任を持って最後まで取り組むことができる。	⑤	助言や注意を素直に関心行動を改善することができる。
⑥	困ったときに自分から助けを求めることができる。	⑥	作業に必要な機器や道具を適切に使用することができる。
⑦	定められた時間作業に集中して取り組むことができる。	⑦	職場の仲間と関係を築き、適切なつきあいをすることができる。
⑧	自分で意思を持って気持ちを安定させることができる。	⑧	報告・連絡・相談を適切に行うことができる。
⑨	自ら積極的に作業に取り組むことができる。	⑨	周りの人に対して感謝の気持ちを持つことができる。
⑩	自分の長所・短所を理解し、受け入れることができる。	⑩	自ら整理整頓を行うことができる。
⑪	自分に何らかの障害があることを理解し、受け止めることができる。	⑪	顧客に対して必要なマナーを守って対応することができる。
⑫	集団への指示を理解することができる。	⑫	同僚と協力して作業を行うことができる。
⑬	求められる速度で作業を行うことができる。	⑬	自分で作業の準備・片付けを行うことができる。
⑭	遅刻・欠勤無く安定して出勤することができる。	⑭	指示や場面に合わせて、適切な言葉遣いで話することができる。
⑮	自分の健康状態を把握し、健康を維持することができる。	⑮	指示された内容などしっかりと記憶することができる。
⑯	必要な時間作業を行うための体力を有している。	⑯	短時間や休憩など定められた時間を遵守することができる。
⑰	自分から挨拶をしたり、進事をしたりすることができる。	⑰	「肯定的な意味で」素直に人と接することができる。
⑱	与えられた作業を丁寧にこなすことができる。	⑱	職場上の自分の能力を高めようとする意識がある。

②「継続した就業のために必要な資質・能力」を明らかにする

No	資質・能力	合計点	平均点	No	資質・能力	合計点	平均点
①	職場のルールを理解し、遵守することができる。	75	5.00	①	自ら積極的に作業に取り組むことができる。	66	4.40
②	始業時や休憩など定められた時間を遵守することができる。	74	4.93	②	作業に必要な機器や道具を適切に使用することができる。	66	4.40
③	「働きたい」という意思を明確に持っている。	73	4.87	③	報告・連絡・相談を適切に行うことができる。	66	4.40
④	遅刻・欠勤無く安定して出勤することができる。	72	4.80	④	自分で意思を持って気持ちを安定させることができる。	65	4.33
⑤	必要な時間作業を行うための体力を有している。	72	4.80	⑤	集団への指示を理解することができる。	65	4.33
⑥	助言や注意を素直に関心行動を改善することができる。	72	4.80	⑥	顧客に対して必要なマナーを守って対応することができる。	65	4.33
⑦	職場の仲間と関係を築き、適切なつきあいをすることができる。	72	4.80	⑦	自分に何らかの障害があることを理解し、受け止めることができる。	64	4.27
⑧	報告・連絡・相談を適切に行うことができる。	72	4.80	⑧	同僚と協力して作業を行うことができる。	64	4.27
⑨	困ったときに自分から助けを求めることができる。	71	4.73	⑨	求められる速度で作業を行うことができる。	62	4.13
⑩	自分の健康状態を把握し、健康を維持することができる。	71	4.73	⑩	遅刻・欠勤無く安定して出勤することができる。	62	4.13
⑪	TPDに応じた身だしなみを選択し、維持することができる。	70	4.67	⑪	「肯定的な意味で」素直に人と接することができる。	62	4.13
⑫	定められた時間作業に集中して取り組むことができる。	70	4.67	⑫	職場の仲間と関係を築き、適切なつきあいをすることができる。	60	4.00
⑬	自分から挨拶をしたり、進事をしたりすることができる。	69	4.60	⑬	指示された内容などしっかりと記憶することができる。	60	4.00
⑭	与えられた作業に責任を持って最後まで取り組むことができる。	68	4.53	⑭	職場上の自分の能力を高めようとする意識がある。	60	4.00
⑮	与えられた作業を丁寧にこなすことができる。	68	4.53	⑮	作業の途中で予備等の変更を指示された際に、対応することができる。	59	3.93
⑯	周りの人に対して感謝の気持ちを持つことができる。	68	4.53	⑯	自分の長所・短所を理解し、受け入れることができる。	59	3.93
⑰	作業を積み重ねることによって習熟することができる。	67	4.47	⑰	求められる速度で作業を行うことができる。	54	3.60
⑱	自分で作業の準備・片付けを行うことができる。	67	4.47	⑱	作業中、自分の確かな判断を行うことができる。	51	3.40
⑳	与えられた作業を指示通りに正確に行うことができる。	66	4.40				

※全体平均：4.40 標準偏差：0.37

各評価表やインタビューの結果抽出された資質・能力を36項目に整理することができた。

36の資質・能力の内、平均点+標準偏差=4.77ptを超える項目を7項目確認することができた。

③「継続した就業のために必要な資質・能力」と「基礎的・汎用的能力」4能力のマッチング

能力	具体的内容	合計点	平均点	標準偏差
人間関係形成能力	①TPDに応じた身だしなみを選択し、維持することができる。	75		
人間関係形成能力	②職場のルールを理解し、遵守することができる。	74		
人間関係形成能力	③与えられた作業を指示通りに正確に行うことができる。	73		
人間関係形成能力	④作業の途中で予備等の変更を指示された際に、対応することができる。	72		
人間関係形成能力	⑤与えられた作業に責任を持って最後まで取り組むことができる。	72		
人間関係形成能力	⑥困ったときに自分から助けを求めることができる。	71		
人間関係形成能力	⑦定められた時間作業に集中して取り組むことができる。	70		
人間関係形成能力	⑧自分で意思を持って気持ちを安定させることができる。	70		
人間関係形成能力	⑨自ら積極的に作業に取り組むことができる。	69		
人間関係形成能力	⑩自分の長所・短所を理解し、受け入れることができる。	69		
人間関係形成能力	⑪自分に何らかの障害があることを理解し、受け止めることができる。	68		
人間関係形成能力	⑫集団への指示を理解することができる。	68		
人間関係形成能力	⑬求められる速度で作業を行うことができる。	68		
人間関係形成能力	⑭遅刻・欠勤無く安定して出勤することができる。	68		
人間関係形成能力	⑮自分の健康状態を把握し、健康を維持することができる。	68		
人間関係形成能力	⑯必要な時間作業を行うための体力を有している。	68		
人間関係形成能力	⑰自分から挨拶をしたり、進事をしたりすることができる。	68		
人間関係形成能力	⑱与えられた作業を丁寧にこなすことができる。	68		
人間関係形成能力	⑲「働きたい」という意思を明確に持っている。	73		
人間関係形成能力	⑳職場上の自分の能力を高めようとする意識がある。	74		
自己管理・自己理解能力	①与えられた作業を指示通りに正確に行うことができる。	75		
自己管理・自己理解能力	②始業時や休憩など定められた時間を遵守することができる。	74		
自己管理・自己理解能力	③「働きたい」という意思を明確に持っている。	73		
自己管理・自己理解能力	④遅刻・欠勤無く安定して出勤することができる。	72		
自己管理・自己理解能力	⑤必要な時間作業を行うための体力を有している。	72		
自己管理・自己理解能力	⑥助言や注意を素直に関心行動を改善することができる。	72		
自己管理・自己理解能力	⑦職場の仲間と関係を築き、適切なつきあいをすることができる。	72		
自己管理・自己理解能力	⑧報告・連絡・相談を適切に行うことができる。	72		
自己管理・自己理解能力	⑨困ったときに自分から助けを求めることができる。	71		
自己管理・自己理解能力	⑩自分の健康状態を把握し、健康を維持することができる。	71		
自己管理・自己理解能力	⑪TPDに応じた身だしなみを選択し、維持することができる。	70		
自己管理・自己理解能力	⑫定められた時間作業に集中して取り組むことができる。	70		
自己管理・自己理解能力	⑬自分から挨拶をしたり、進事をしたりすることができる。	69		
自己管理・自己理解能力	⑭与えられた作業に責任を持って最後まで取り組むことができる。	68		
自己管理・自己理解能力	⑮与えられた作業を丁寧にこなすことができる。	68		
自己管理・自己理解能力	⑯周りの人に対して感謝の気持ちを持つことができる。	68		
自己管理・自己理解能力	⑰作業を積み重ねることによって習熟することができる。	67		
自己管理・自己理解能力	⑱自分で作業の準備・片付けを行うことができる。	67		
自己管理・自己理解能力	⑲与えられた作業を指示通りに正確に行うことができる。	66		
自己管理・自己理解能力	⑳職場上の自分の能力を高めようとする意識がある。	74		
自己管理・自己理解能力	⑲「働きたい」という意思を明確に持っている。	73		
自己管理・自己理解能力	⑳職場上の自分の能力を高めようとする意識がある。	74		

合計点では「自己管理・自己理解能力」平均点では、「キャリアプランニング能力」が高い数値となった。

考察

1. 「継続的な就業のために必要な資質・能力」は、学校生活横断的に身に付けるべき能力が多く確認でき、教員団が課題・目標を共有した上で学校生活全ての場面で学びの機会を設けられるようなプログラムを企画・実践することが求められる。

2. 知的障害者が継続的に就業するためには、「キャリアプランニング能力」の獲得が重要であることが示唆された。知的障害者の特性を踏まえた上で、在学中に「キャリアプランニング能力」を身につけられるような新しいキャリア教育の具体的な指導・支援プログラムを開発していくことが求められる。